

◎令和4年度、本校のめざす生徒像は「何事にもチャレンジし、粘り強く取り組む生徒」の育成です。

保護者の皆様に望むこと

この目標に向かって、全教職員一丸となって日々教育活動の実践に取り組んでいます。

目標達成において欠かせないと考えているのは自己肯定感の育成です。自己肯定感は、人生を切り拓くチャレンジ精神のベースともなる、人がよりよく生きるためにとても重要な要素です。

ご家庭でも、自己肯定感を育むために以下の点に取り組んでみてください。

1. 結果ではなくプロセスを「認める」

良い結果に対しての賞賛も大事ですが、挑戦や努力をした行動のプロセスに対して「たくさん練習したね」など、子どものがんばりを認める声かけをお願いします。

2. 比べるのは「他の子」ではなく「少し前の子も自身」

まわりと比べてほめると、他人の評価を気にする人になってしまいがちです。「前はできなかったことができるようになったね」と自分の成長を認めてもらえると、充実感と安心感を感じることができ、次へのモチベーションにつながります。

3. 役割を与える

日本の子どもは、他人との関わりの中で、自己肯定感が左右されることが多いそうです。「人の役に立っている」「人から必要とされている」と感じられることが大事です。何かの役割を果たすことで、「自分は認められている」という実感を得ることが自己肯定感につながります。家庭でもお手伝いの習慣と、必ず「ありがとう」の声かけをお願いします。

那賀川中学校の皆さんに望むこと

①「さわやかな挨拶をする人になってほしい」

那賀川中学校は、「めざせあいさつ日本一」を掲げています。あいさつはコミュニケーションの基本です。今年度も地域の方々から「中学生の挨拶がとてもさわやかです」とお褒めの言葉をたくさんいただいています。今後もしっかりと取り組んでいきましょう。

②「自分の可能性を信じて努力を続ける人になってほしい」

本校生徒は一人一人、無限の可能性を持っています。自分の可能性を信じて努力を続けられれば、大きく成長すると考えています。目標に向かう情熱と、努力を続けるひたむきさを身に着けられるよう取り組んでいきましょう。

③「自分も相手も大切にできる人になってほしい」

本校は全教育活動の中で、人権学習に取り組んでいます。相手の立場になって考え、思いやりをもって人に接することができるよう日々学習しています。特にいじめは人として絶対に許されない行為です。相手を本気で思いやり、困っている人を助けられるような人になってほしいと思います。皆が明るく元気に学べる「魅力ある学校」をみんなで作っていきましょう。

感染症対策を万全にしたうえで学校行事を実施しています。

【3年生 修学旅行】5月19・20日に、一泊二日の松山方面への修学旅行を実施しました。3年生にとっては何度かの延期を経ての修学旅行です。1日目はいちご狩りやフォレストアドベンチャーをたっぷりと楽しみ、道後の街並みを散策。2日目は砥部焼体験を実施し、村上水軍の歴史についてしっかりと学びました。時間を意識した集団行動は見事でした。また、感染症対策も怠ることなく、コロナ禍での修学旅行をしなやかに成功させ、たくさんの思い出をつくれた3年生に、たくましさを感じた2日間でした。

